



2022年5月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年4月14日

上場会社名 株式会社IGポート

上場取引所 東

コード番号 3791 URL <http://www.igport.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石川光久

問合せ先責任者 (役職名) 管理担当執行役員 (氏名) 栗本典博

TEL 0422-53-0257

四半期報告書提出予定日 2022年4月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年5月期第3四半期の連結業績(2021年6月1日～2022年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年5月期第3四半期	8,552		945	69.6	929	61.4	619	45.1
2021年5月期第3四半期	6,894	0.7	557	59.1	575	65.3	427	137.8

(注) 包括利益 2022年5月期第3四半期 596百万円 (62.8%) 2021年5月期第3四半期 366百万円 (86.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年5月期第3四半期	125.33	
2021年5月期第3四半期	86.51	

(注) 「収益認識に関する会計基準」等を第1四半期連結会計期間の期首から適用した数値となっており、当該会計基準の適用により大きな影響の生じる売上高の前年同期比は、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年5月期第3四半期	10,836	6,419	58.5
2021年5月期	11,847	5,780	47.5

(参考) 自己資本 2022年5月期第3四半期 6,336百万円 2021年5月期 5,623百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年5月期		0.00		10.00	10.00
2022年5月期		0.00			
2022年5月期(予想)				5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年5月期末配当金の内訳 普通配当金5円00銭 特別配当金5円00銭

3. 2022年5月期の連結業績予想(2021年6月1日～2022年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,878		374	45.8	362	51.1	127	78.1	25.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 「収益認識に関する会計基準」等を第1四半期連結会計期間の期首から適用した数値となっており、当該会計基準の適用により大きな影響の生じる売上高の前年同期比は、記載しておりません。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名)

除外 1 社 (社名)

CYBORG009 CALL OF JUSTI
CE製作委員会

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年5月期3Q	5,055,400 株	2021年5月期	5,055,400 株
2022年5月期3Q	109,033 株	2021年5月期	109,033 株
2022年5月期3Q	4,946,367 株	2021年5月期3Q	4,938,785 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染者数はオミクロン株による感染拡大により増加し、再び広い地域にまん延防止等重点措置が発出され、また、米国の利上げやテーパリングの終了による為替や株式等の金融市場の影響や原油高、東欧での地政学リスクが高まったことにより、経済の先行きについては不透明な状況が続いております。

このような事業環境のもと、当社グループはアニメーション作品の企画・制作を行う映像制作事業、コミック雑誌等の企画、製造、販売及び電子コミックスの配信を行う出版事業、作品の二次利用による印税・収益分配金等を得る著作権事業に取り組んでまいりました。

また、「収益認識に関する会計基準」等を第1四半期連結会計期間の期首から適用した数値となっており、当該会計基準の適用により大きな影響の生じる売上高の前年同期比は記載しておりません。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,552,550千円、経常利益は929,352千円（前年同期比61.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は619,939千円（前年同期比45.1%増）となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

① 映像制作事業

映像制作事業におきましては、テレビ用アニメーション「王様ランキング」「プラチナエンド」等、配信用アニメーション「攻殻機動隊 SAC_2045」SEASON 2、「ULTRAMAN」Season 2、劇場用アニメーション「バブル BUBBLE」、配信用実写ドラマ「湯あがりスケッチ」、その他ゲーム用等のアニメーションを納品しました。

映像制作事業では、人件費やCG制作費、外注費の高騰、制作期間の長期化により厳しい状況が続いております。新規受注や納品しました一部の作品について改善がみられましたが、受注損失引当金を計上する作品もありました。

以上により、当事業の売上高は4,572,958千円、営業損失は33,523千円（前年同期は47,824千円の営業損失）となりました。

② 出版事業

出版事業におきましては、月刊誌「コミックガーデン」、コミックス「魔法使いの嫁 16巻」「リィンカーネーションの花弁 15巻」「転生貴族の異世界冒険録 7巻」等、定期月刊誌9点、並びに新刊コミックス・書籍85点を刊行しました。また、既刊コミックスの「リィンカーネーションの花弁」「魔道具師ダリヤはうつむかない～Dahlia Wilts No More～」は、特に販売好調でありました。電子書籍売上が前年対比70%増で推移しており全体売上の60%を占める金額となっております。

以上により、当事業の売上高は1,948,620千円（前年同期比36.3%増）、営業利益は516,627千円（前年同期比85.7%増）となりました。

③ 著作権事業

著作権事業におきましては、「海賊王女」「進撃の巨人」「GREAT PRETENDER」「ハイキュー!!」「攻殻機動隊」等のシリーズタイトルを中心に、二次利用による収益分配を計上しました。

著作権収入を獲得するため大型作品への出資を行った結果、前年同期と比較し映像マスター及びコンテンツ資産の減価償却費については増加しております。

以上により、当事業の売上高は1,797,819千円（前年同期比16.0%増）、営業利益は566,439千円（前年同期比33.7%増）となりました。

④ その他

その他事業におきましては、雑誌のイラスト描きやキャラクターの商品化、スマートフォン向けアプリ等により、当事業の売上高は233,151千円（前年同期比30.5%増）となり、営業損失は23,883千円（前年同期は6,556千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,011,382千円減少し10,836,613千円となりました。主な要因は受取手形、売掛金及び契約資産（前連結会計年度末は受取手形及び売掛金）が1,554,087千円、映像マスターが373,982千円、現金及び預金が344,946千円増加し、一方、仕掛品が2,935,110千円、コンテンツ資産が308,615千円、前渡金が126,500千円減少したことによるものであります。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,649,722千円減少し4,417,498千円となりました。主な要因は長期借入金が200,000千円増加し、一方、前受金が1,664,628千円、未払金が137,095千円、買掛金が112,382千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ638,340千円増加し6,419,114千円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上や配当金の支払いにより利益剰余金が710,896千円増加し、一方、非支配株主持分が74,836千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月期の業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間における業績は計画を上回って推移しておりますが、世界的なインフレが続いており、今後、さらに外注費や人件費、公共料金等が高騰した場合、第4四半期連結会計期間において既に受注している作品については制作予算を上回る原価が発生すると予想されることから、2022年1月14日に公表いたしました連結業績予想は変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,505,861	4,850,808
受取手形及び売掛金	1,225,181	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	2,779,269
商品及び製品	104,222	130,823
仕掛品	2,959,604	24,494
貯蔵品	8,165	8,120
前渡金	126,500	—
その他	122,069	103,907
貸倒引当金	△395	△1,708
流動資産合計	9,051,210	7,895,715
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	407,285	394,668
土地	651,619	651,619
映像マスター（純額）	399,839	773,822
その他（純額）	76,892	69,023
有形固定資産合計	1,535,636	1,889,133
無形固定資産		
コンテンツ資産	776,086	467,471
その他	15,396	17,413
無形固定資産合計	791,483	484,884
投資その他の資産		
投資有価証券	170,500	192,651
その他	299,163	374,228
投資その他の資産合計	469,664	566,879
固定資産合計	2,796,785	2,940,897
資産合計	11,847,995	10,836,613

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	722,217	609,834
未払金	644,347	507,252
未払法人税等	171,618	204,157
前受金	3,202,252	1,537,623
預り金	403,589	517,109
賞与引当金	—	55,067
役員賞与引当金	73,895	7,365
返品調整引当金	52,413	—
受注損失引当金	179,703	170,489
その他	367,163	347,145
流動負債合計	5,817,200	3,956,043
固定負債		
長期借入金	—	200,000
株式給付引当金	29,928	29,928
退職給付に係る負債	73,309	78,731
役員退職慰労引当金	66,311	73,802
その他	80,470	78,992
固定負債合計	250,019	461,454
負債合計	6,067,220	4,417,498
純資産の部		
株主資本		
資本金	781,500	781,500
資本剰余金	2,186,440	2,186,440
利益剰余金	2,849,505	3,560,402
自己株式	△189,732	△189,732
株主資本合計	5,627,713	6,338,610
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△4,235	△1,955
その他の包括利益累計額合計	△4,235	△1,955
非支配株主持分	157,296	82,459
純資産合計	5,780,774	6,419,114
負債純資産合計	11,847,995	10,836,613

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)
売上高	6,894,398	8,552,550
売上原価	5,426,048	6,558,295
売上総利益	1,468,350	1,994,254
返品調整引当金戻入額	19,190	—
差引売上総利益	1,487,540	1,994,254
販売費及び一般管理費	929,816	1,048,542
営業利益	557,724	945,712
営業外収益		
受取利息	801	286
受取賃貸料	14,496	15,169
補助金収入	24,188	640
その他	850	2,557
営業外収益合計	40,336	18,653
営業外費用		
支払利息	525	401
為替差損	116	558
賃貸収入原価	10,496	8,210
知的財産関連費用	6,232	3,503
投資事業組合運用損	4,791	2,590
持分法による投資損失	—	19,606
その他	224	143
営業外費用合計	22,387	35,013
経常利益	575,673	929,352
特別損失		
減損損失	13,130	28,015
特別損失合計	13,130	28,015
税金等調整前四半期純利益	562,543	901,336
法人税、住民税及び事業税	179,141	304,520
法人税等調整額	14,938	2,856
法人税等合計	194,079	307,377
四半期純利益	368,463	593,959
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△58,810	△25,979
親会社株主に帰属する四半期純利益	427,274	619,939

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)
四半期純利益	368,463	593,959
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2,334	2,280
その他の包括利益合計	△2,334	2,280
四半期包括利益	366,129	596,239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	424,940	622,219
非支配株主に係る四半期包括利益	△58,810	△25,979

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,736,192	1,429,315	1,550,195	6,715,702	178,695	6,894,398
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,736,192	1,429,315	1,550,195	6,715,702	178,695	6,894,398
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△47,824	278,169	423,798	654,143	△6,556	647,587

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	654,143
「その他」の区分の損失	△6,556
全社費用(注)	△89,863
四半期連結損益計算書の営業利益	557,724

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失12,500千円、「出版事業」に係る減損損失630千円を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
TV・配信・ビデオ用のアニメ 映像制作	2,889,983	—	—	2,889,983	—	2,889,983
劇場用のアニメ映像制作	1,052,938	—	—	1,052,938	—	1,052,938
その他のアニメ映像制作	533,393	—	—	533,393	—	533,393
コミック・書籍の出版販売	—	539,966	—	539,966	—	539,966
電子書籍の販売	—	1,408,654	—	1,408,654	—	1,408,654
映像コンテンツの著作権料	—	—	1,128,321	1,128,321	—	1,128,321
出版物に係る原作印税収入	—	—	119,033	119,033	—	119,033
その他	96,642	—	40,283	136,926	233,151	370,077
顧客との契約から生じる収益	4,572,958	1,948,620	1,287,638	7,809,218	233,151	8,042,369
その他の収入	—	—	510,180	510,180	—	510,180
外部顧客への売上高	4,572,958	1,948,620	1,797,819	8,319,399	233,151	8,552,550
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,572,958	1,948,620	1,797,819	8,319,399	233,151	8,552,550
セグメント利益又は損失(△)	△33,523	516,627	566,439	1,049,543	△23,883	1,025,660

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 「その他の収入」には、製作委員会への出資から生じる収益の分配などの企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に基づく収益を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,049,543
「その他」の区分の損失	△23,883
全社費用(注)	△79,947
四半期連結損益計算書の営業利益	945,712

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産にかかる重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「映像制作事業」に係る減損損失28,015千円を計上していません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて当第3四半期連結累計期間の「映像制作事業」の売上高は21,291千円増加、セグメント利益は120,579千円減少し、「出版事業」の売上高は9,576千円減少、セグメント利益の影響額はありません。また、「著作権事業」の売上高は65,091千円減少、セグメント利益は2,256千円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。